

# 人材育成と人材の確保を 念頭に置いた 体制構築



長野県県民文化部文化政策課  
多文化共生・パスポート室 花岡 沙代  
長野県地域日本語教育の体制づくり事業  
総括コーディネーター 佐藤 佳子

# 長野県の紹介

人口

200万991人  
(R6.1.1時点推計)

面積

約13,562km<sup>2</sup>

市町村数

77  
(19市、23町、35村)

東京から  
長野まで  
松本まで  
大阪から  
松本まで  
名古屋から  
松本まで

新幹線で約1時間30分  
特急で3時間

新幹線+特急で約3時間

特急で約2時間



長野県PRキャラクター「アルクマ」  
©長野県アルクマ

特色

南北に長く、気候、文化、産業等  
地域によって異なる

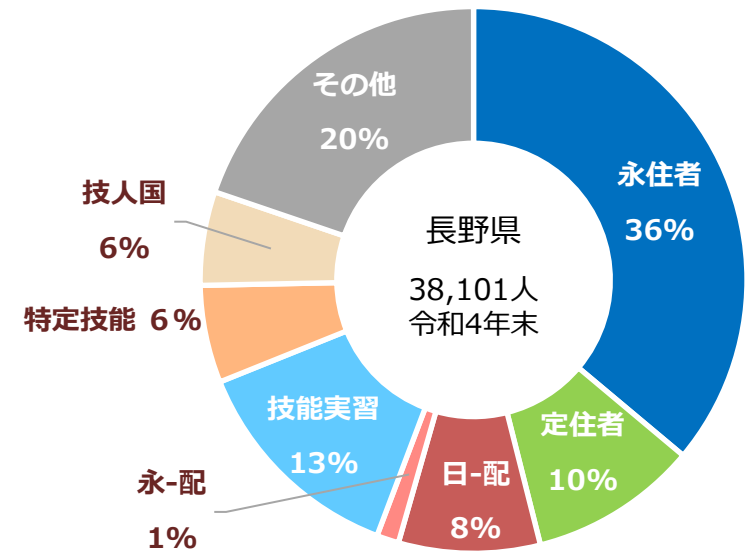
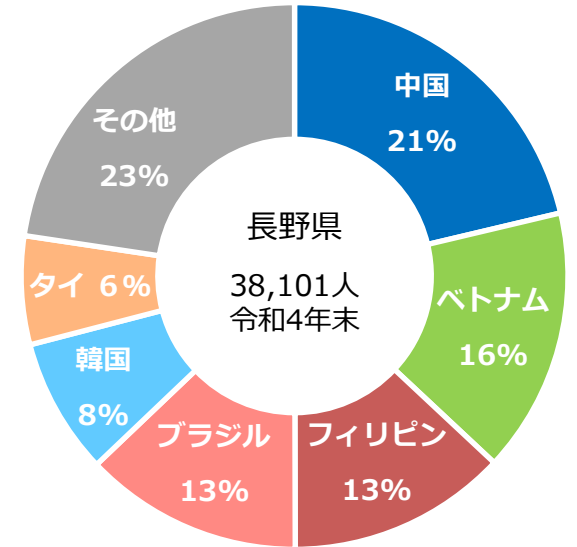
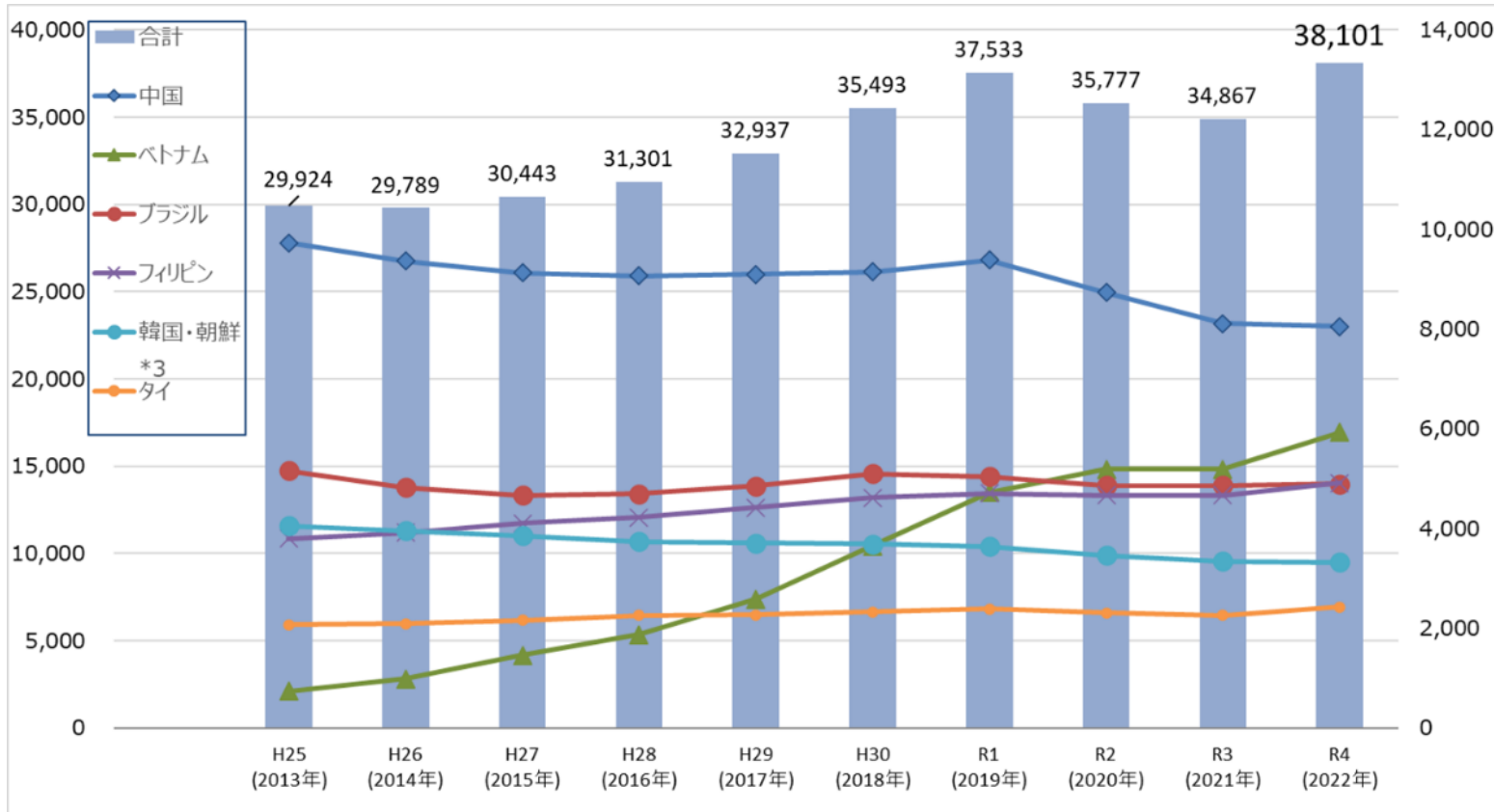
外国人の在住状況も地域に  
よって異なる

- 国籍
- 在留資格 × 季節 (就労分野)
- 背景

日本語教育機関の設置状況  
も地域によって異なる

# 長野県内の外国人住民数

- R4末で38,101人、総人口比1.89%
- 77市町村すべてに在住
- 多様化が進む 国籍・地域 (H24:99 → R4:125)  
在留資格 (身分系 H24:69% → R4:55%)



# 長野県地域日本語教育の体制づくり事業

外国人の日本語学習を地域の活力につなげ、外国人とともに多文化共生の地域づくりを行うため、

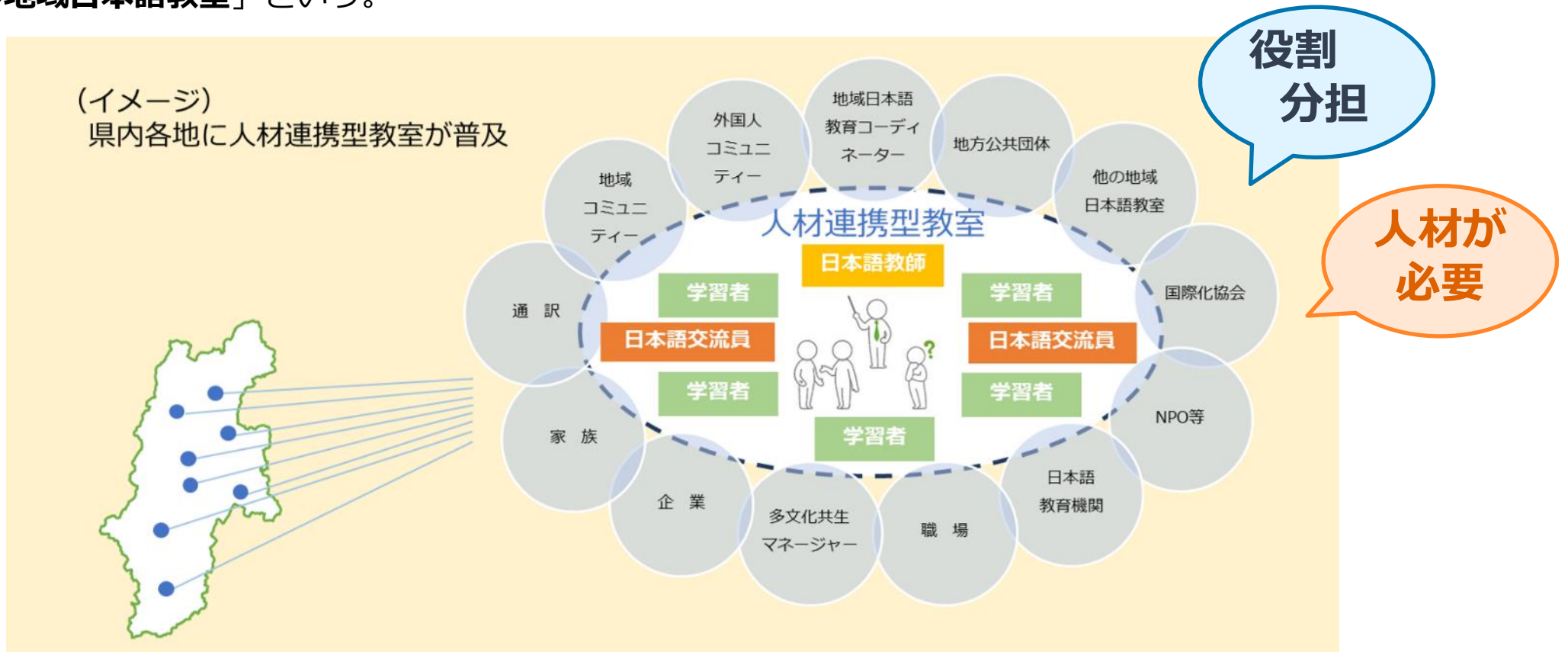
- ① 多文化共生の拠点となる日本語教育人材（**コーディネーター、日本語教師、日本語交流員**）が連携した地域日本語教室（**「人材連携型教室」**）を創出・普及する
- ② 外国人県民がどこに住んでも日本語を学ぶことができる環境づくりを推進する

## （参考） 体制

- 県多文化共生・パスポート室  
室長 1 名、課長補佐 1 名、室員 4 名（多文化共生担当 2 名、パスポート担当 1 名、兼務 1 名）
- 総括コーディネーター 1 名
- 地域日本語教育コーディネーター 4 名（地域別）

# 「人材連携型教室」とは

「日本語教育人材（コーディネーター、日本語教師、日本語交流員）が連携した学習機会」と「地域社会とのつながり」を提供できる教室。行政が関与し、地域住民と連携することで、外国人学習者を取り巻く多様な関係者、関係機関とのハブとなる存在を目指す。人材連携型教室設置のため、県からの人材派遣支援を受けて実施するモデル期間中の教室を「モデル地域日本語教室」という。



【モデル地域日本語教室】R1~2：松本、上田 R2~3：駒ヶ根 R3~4：長野、佐久 R5~6：安曇野（下線は人材連携型教室が続いている地域）



# 人材連携型教室の例（全体）



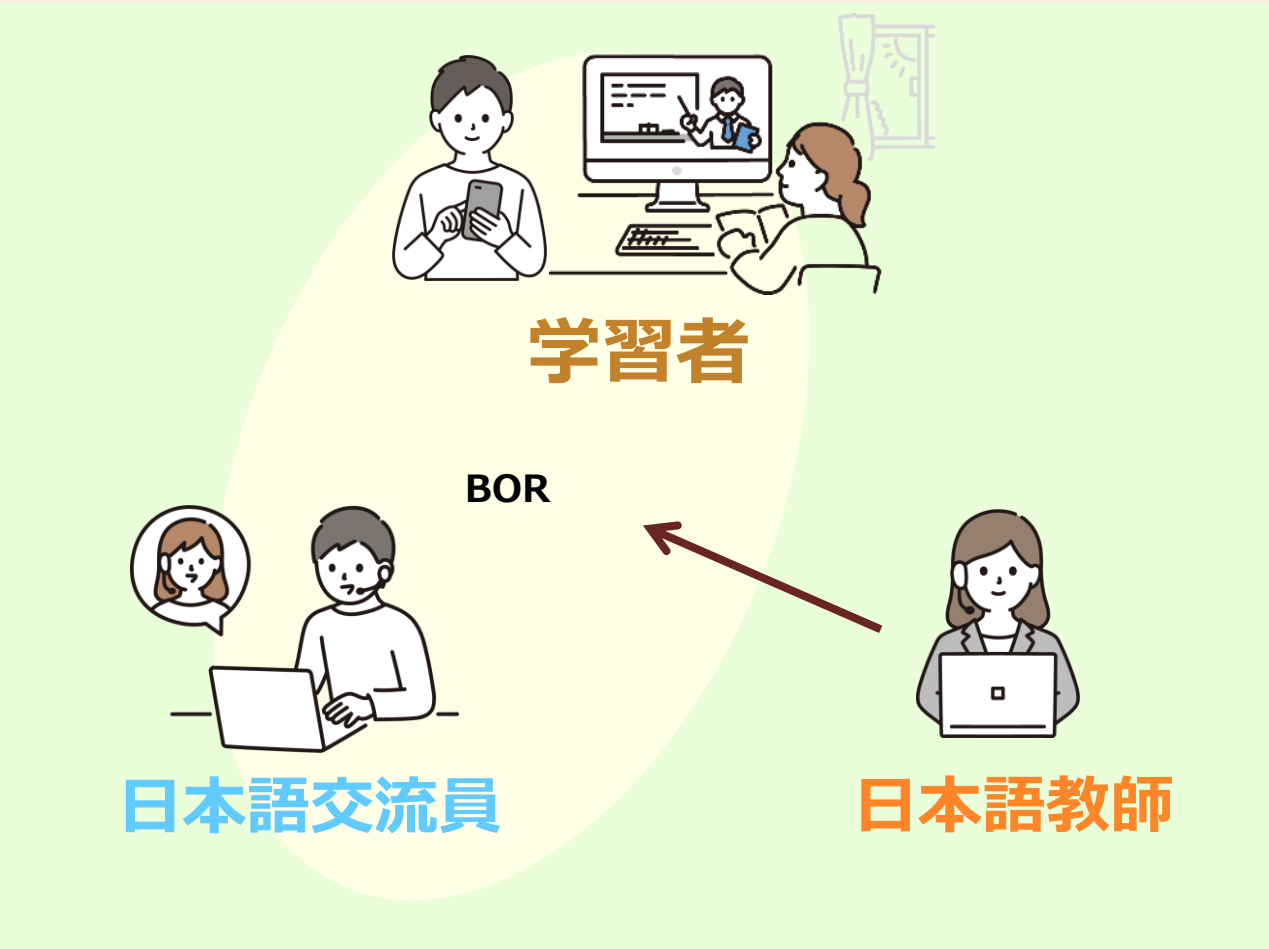
写真・イラストの枠外：地域日本語教育コーディネーター  
市職員（多文化共生担当課等）

場所・Zoomの  
確保、学習者の  
募集等

# 人材連携型教室の例（グループ）



- ▲種別（燃やせる・燃やせない・資源等）ごとにごみを分ける活動。  
各グループの様子を日本語教師が見回る。



- ▲テーマに合わせてBORごとに学習者と日本語交流員が会話。日本語教師は各BORを回り、必要な場面でサポート。

# 令和5年度取組項目

1

総合調整会議（2回）  
地域会議  
（3地域×1回）

2

コーディネーター  
の配置  
（総括1名、地域4名）

3

地域日本語教室  
実態調査  
（対象75教室）

4

モデル地域日本語  
教室  
（1教室へ人材を派遣）

5

担い手（支援者）の  
養成  
※兼日本語交流員の養成  
（オンライン全4回）

6

R6からに向けた  
日本語教師養成の  
検討  
（月1回）

7

市町村等への  
財政支援  
※間接補助金

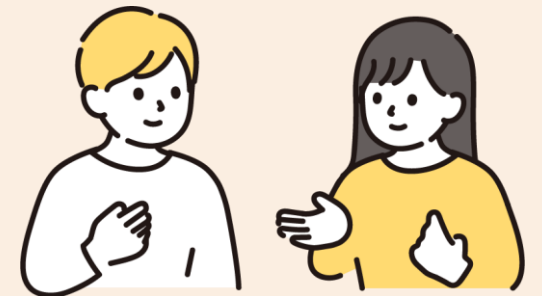
8

しんしゅう日本語  
教育等人材バンク  
の設置・運営



# 担い手（支援者）の養成

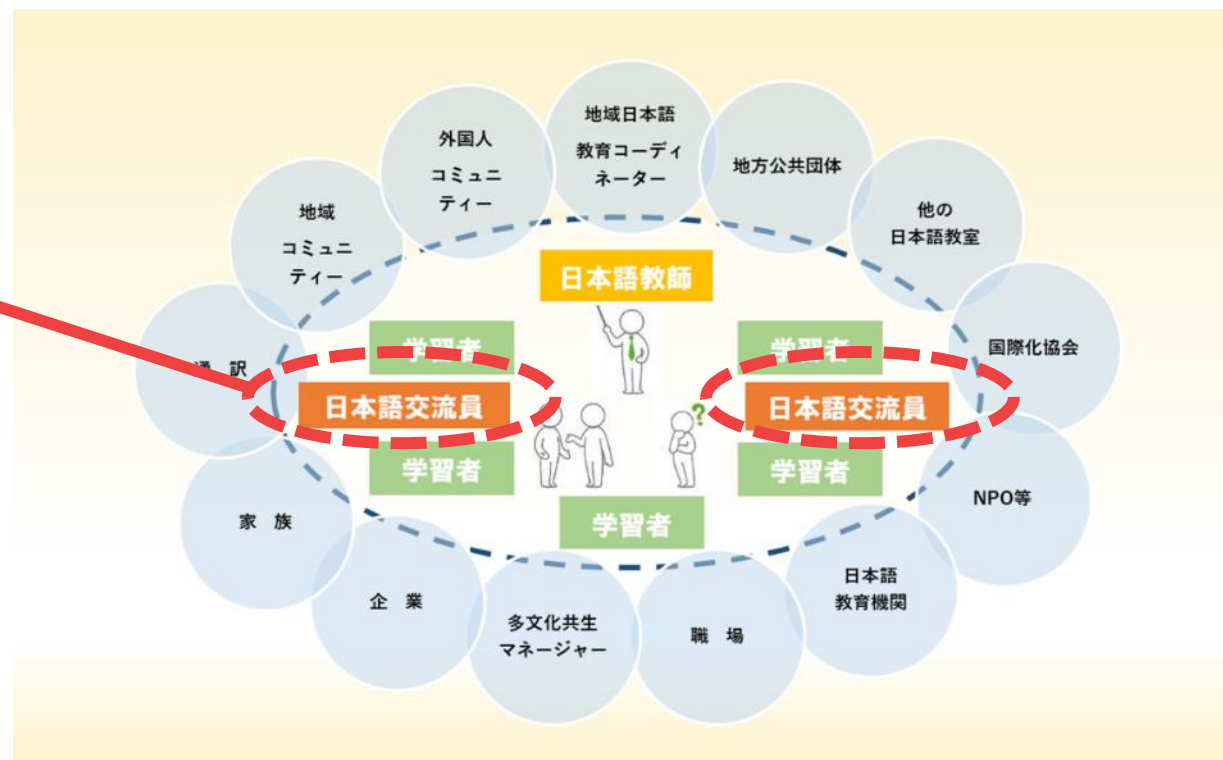
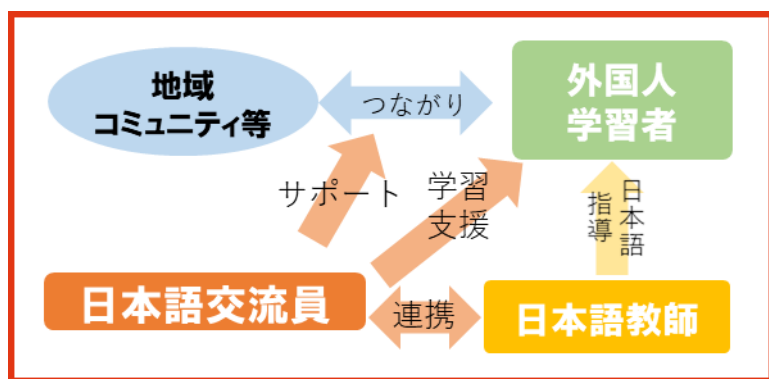
## —日本語交流員の育成・確保—



# 日本語交流員とは

①外国人の日本語学習を支援する（発話を促す存在として日本語学習の定着を支援）

②外国人と地域をつなぐ（身近な存在として、地域コミュニティ等と外国人をつなぐ）



（参考）長野県日本語交流員養成研修カリキュラムにおける定義  
日本語を学習者に直接教えるのではなく、地域と学習者を繋ぐ。  
地域日本語教育コーディネーター、日本語教師の日本語専門職と  
連携しながら学習者と共に成長する者。

# 研修

- ◆ オンライン、1回2時間、必修（4回）とオプション（2回）で構成
- ◆ 必修を修了した者 = 日本語交流員

	ねらい	テーマ
必修	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>日本語交流員の養成</u></li> <li>● 支援者全体を対象とした基礎的な学びの場の提供</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 日本語交流員の役割と多文化共生（学習者の背景に対する理解）</li> <li>② 多文化コミュニケーション</li> <li>③ やさしい日本語</li> <li>④ 長野県・地域の特性</li> </ol>
オプション	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 支援者のニーズを反映した学びの場の提供（≒学び直し）</li> <li>● トレンドの盛り込み</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 生活Can do・にほんごチェックについて</li> <li>② 地域日本語教室の運営について</li> </ol>

**しあわせ信州** 募集締切 7/14(金)

長野県内には、約3万8千人の外国人の方が暮らしています。

外国人とのコミュニケーションや、多文化共生の地域づくりを目指してみませんか？

## 地域における多文化共生と日本語支援のための研修

～基礎研修～

**参加無料**

オンライン研修

必修 8月1日(火)から全4回

※3回以上受講した方には日本語交流員養成課程の修了証をお渡しします。

オプション

① 9月5日(火)  
② 9月12日(火)

毎回19時から21時に開催します！

**日本語交流員とは**  
日本語を指導する日本語教師と協力しながら日本語学習のサポートをする方です。  
また、外国人が地域で安心して生活し、活躍できるよう地域に寄り添ったサポートを担っていただきます。  
※日本語教師とは異なります

**対象者**  
長野県における活動を通じて、地域住民の意識を変えていく重要な役割ができ、多文化共生に興味のある者  
※日本語学習支援の活動経験や資格の有無、国籍等は問いません。既に日本語交流員養成研修を受講された方もオプションへ参加可能です。

**定員**  
必修：40名 オプション：各回40名  
※定員を超えた場合は、書類選考の可能性がります。

【問合せ先】 長野県県民文化部文化政策課多文化共生・バスポート室  
TEL 026-235-7173  
E-mail tabunka-c@pref.nagano.lg.jp

# 成果

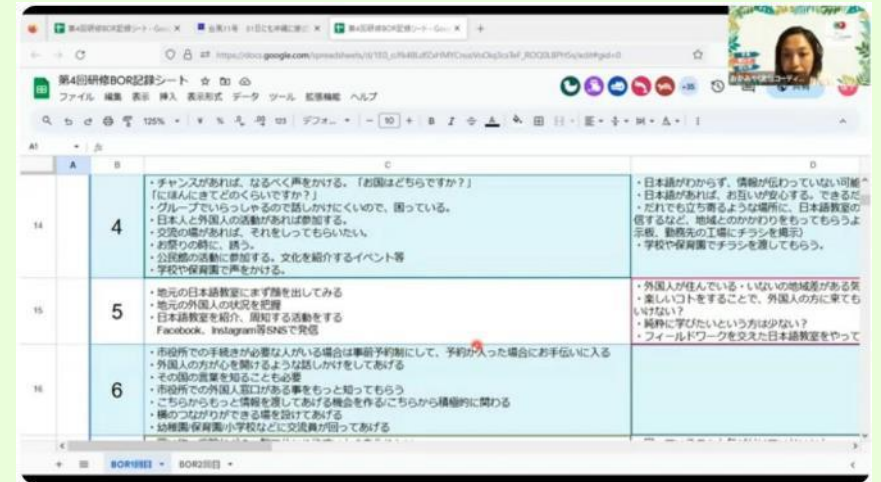
- ◆ R5必修：74名受講、61名修了、オプション：①53名、②43名
- ◆ H30からの268名の日本語交流員を養成
- ◆ 開催日時の見直しによって、受講者の年代・国籍が多様化

## 受講者アンケートから（抜粋）

- 背景を知ることにより、何故日本語を学ぶことが必要なのかということ、様々な角度から落とし込むことができました。（必修①）
- 傾聴する事で信頼関係を築く事ができると感じました。（必修②）
- 日本人はとても曖昧な表現をしていて、わかりにくいなと客観視することができました。（必修③）
- 地域性の違いには、驚きました。（必修④）
- 試験のための勉強も必要ですが、生活に必要な日本語の勉強の仕方のヒントが得られた。（オプション①）
- 持続可能なものにするためには、運営側のこともちゃんと考えないといけないなと思った（オプション②）



▲第1回（研修開始にあたり、交流員について説明）



▲第4回（地域ごとのBORで話し合った内容を共有）

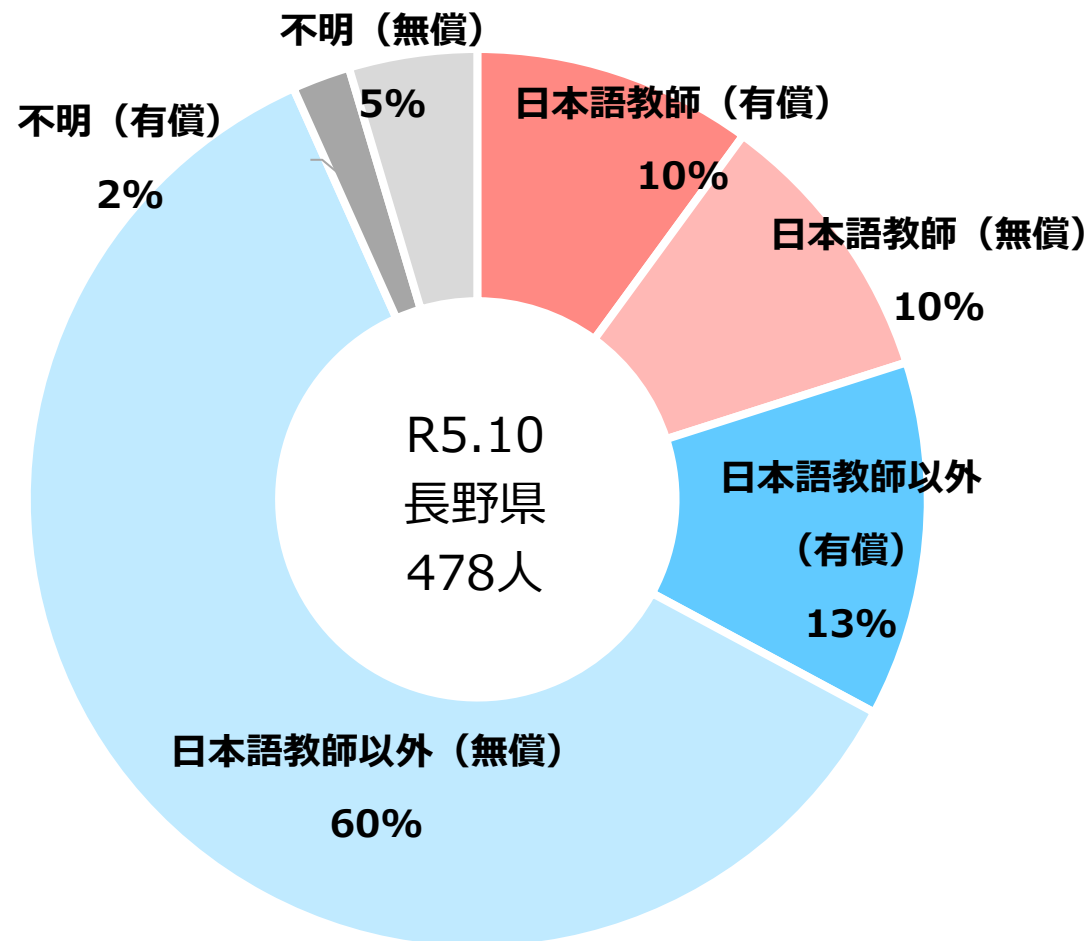
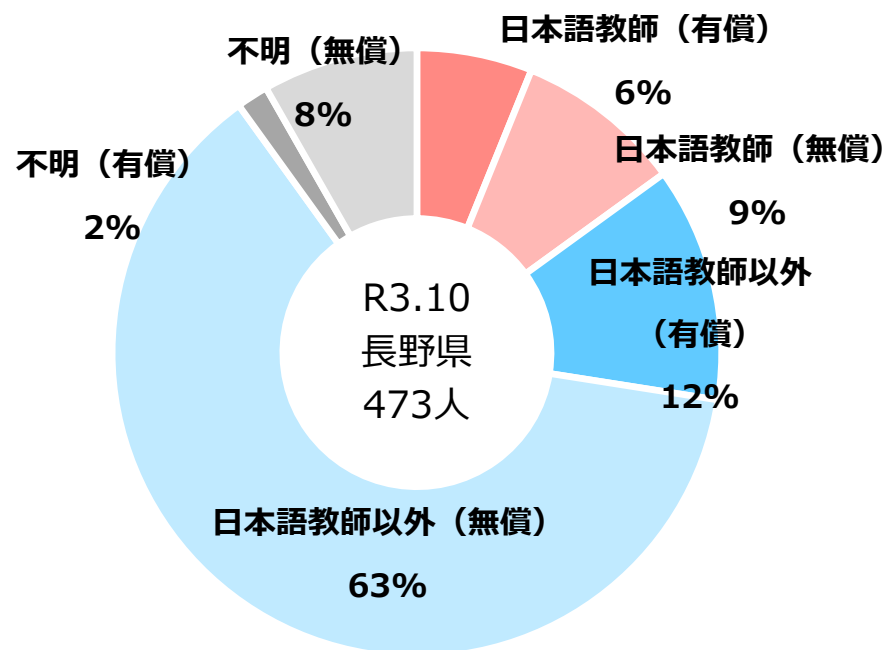
# 日本語教師養成の検討

## —日本語教師の育成・確保—





# 地域における現状



- 地域日本語教室で活動する日本語教師は対R3で5ポイント増加しているものの、20%に留まる。
- 人材バンク登録の日本語教師のうち、地域日本語教室での経験が記載されているのは、73名中12名（16%）

R3・R5地域日本語教室に関する実態調査（長野県）

→**地域で活躍できる日本語教師の育成・確保が必要**

# 目的

- ① 「生活者としての外国人」の特性を理解しモデル地域日本語教室及びモデル期間終了後の教室で日本語教師として活躍できる人材を育成する。  
(= 人材連携型教室の普及を促進する)
- ② 長野県内の地域日本語教育で活躍できる日本語教師を養成することで、地域日本語教育の活性化を図る。

※日本語教師の養成段階にあたる基礎知識や教授法についての研修ではない

修了者に  
期待する  
役割

- 地域日本語教育コーディネーターの候補
- 県モデル地域日本語教室（自走時の人材連携型教室）における日本語教師としての参加

# 検討状況

これまでに検討した事項

名称	日本語教師のための地域日本語教育研修
時期	令和6年9月から12月ごろ（講座全6回、実践2回以上）
対象	①～③すべてに該当する県内に在住、在勤又は在学している者。①は②に先立って該当していること。 （書類選考あり） ①日本語教師の要件を満たす（登録日本語教員又は告示基準に基づく） ②日本語教育現場での一定（※）の実務経験を有する （教育実習・研修等は除く）※目安：継続して3か月程度以上（締切日時点） ③県内の地域日本語教育の活性化に寄与する意志を持つ
講師	総括コーディネーター、地域日本語教育コーディネーター、外部有識者 ※コーディネーターは受講者のトレーナー的立ち位置も担う
形式	講座：オンライン 実践：既存教室の見学又は参加、モデル教室又は協力教室での実践
定員	各年度10名程度（モデル地域を優先）
内容	講座：「生活者としての外国人」に対する日本語教育について／長野県の現状・目指す体制について／参照枠・生活Can doについて／教材、ツールについて／オンラインと対面の特性について／ニーズ分析について／コースデザインの理解／レベルチェックについて／教室活動の計画／実践の振り返り・まとめ 実践：教室の見学・参加／モデル教室又は協力教室での活動実践



# しんしゅう日本語教育等 人材バンク —人材の見える化とマッチング—

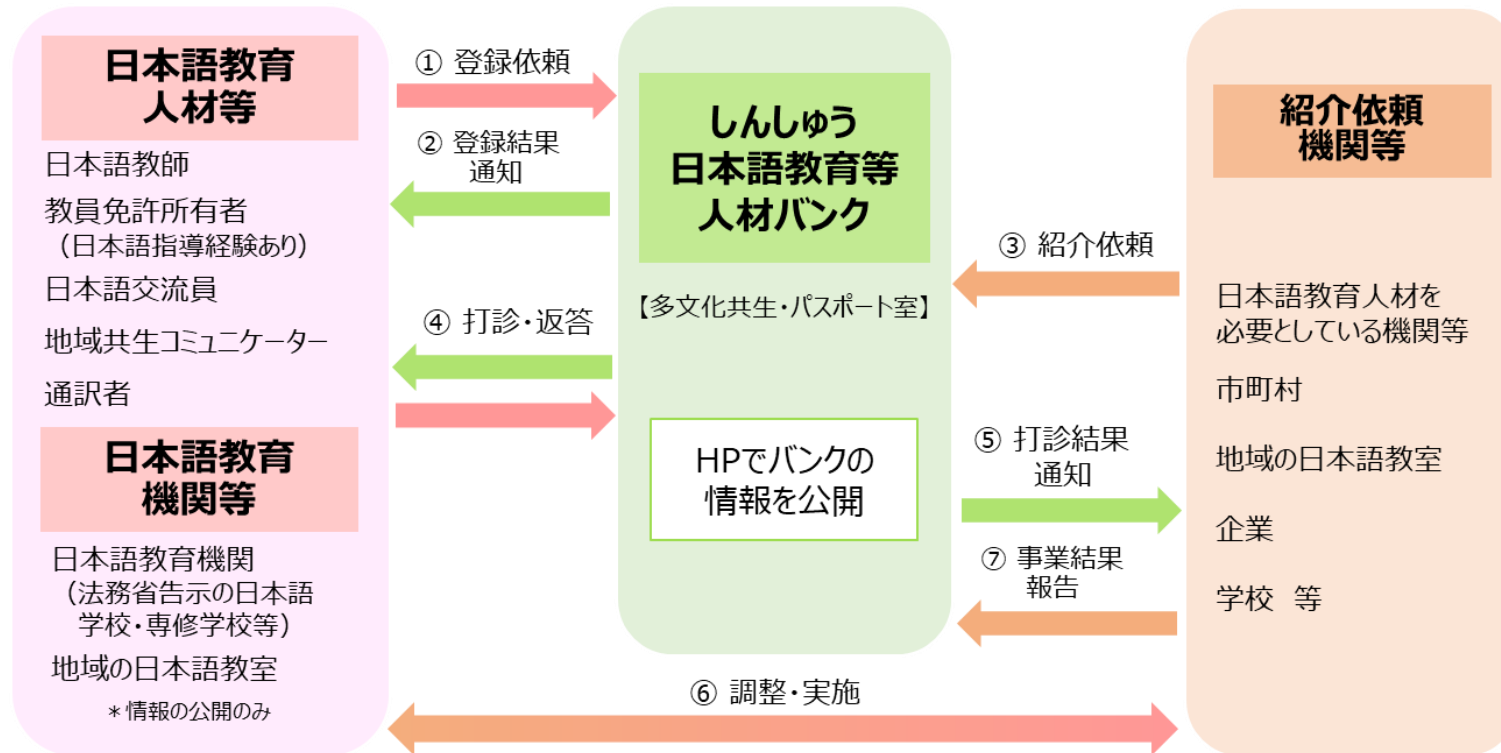


# バンクの概要

## 目的

どこに住んでも日本語を学べる地域を目指して、日本語教育に関する経験や能力等を持っている日本語教育人材等と、必要としている団体、企業等とのマッチングを図る

## 利用の ながれ





## しんしゅう日本語教育等人材バンク

長野県内の日本語教育の充実と多文化共生の地域づくりを推進するため、日本語教育に関する経験や能力を有する人材・機関とそれを必要とする団体等をつなげるための人材バンクです。

日本語教育人材についてはマッチングを、日本語教育機関・地域の日本語教室については本ページでの情報提供を行います。

### 登録からマッチングまでの



### 登録人材・機関 (2021年10月26日現在)

しんしゅう日本語教育等人材バンクに登録されている人材・機関です。

人材紹介を希望する方は事前にご確認ください。

全種類一括での名簿はこちら → [Excel しんしゅう日本語教育等人材バンク全体名簿 \(エクセル: 71KB\)](#)

登録一覧	登録している人材等の要件	活動内容
<a href="#">Excel 日本語教師 (51名) (エクセル: 53KB)</a>	日本語教師の要件を満たす者 (一部の要件は見込みを含む)	日本語学習者に専門性をもって日本語を指導する
<a href="#">Excel 日本語指導教員 (14名) (エクセル: 27KB)</a>	教員免許状及び日本語指導の経験を有する者	学校等において日本語学習等の支援を行う
<a href="#">Excel 日本語交流員 (25名) (エクセル: 26KB)</a>	県が行う日本語交流員養成研修を修了した者	日本語教師と連携して日本語学習を支援するとともに、学習者と地域をつなげる

## HP公開情報

- 登録の種類  
(日本語教師の場合は、満たす要件と段階)
- 所有資格
- 実務経験の内容・年数
- 対応可能言語
- 活動形態  
(雇用orボランティア)
- 活動可能な地域・曜日・時間
- オンライン対応の可否
- PR

## 登録者 (R6.1.11現在)

人材等の種類	要件	登録者数
日本語教師	日本語教師の要件該当者 (一部見込みを含む)	73
日本語指導教員	教員免許状及び日本語指導の経験を有する者	22
日本語交流員	県が行う日本語交流員養成研修を修了した者	42
地域共生コミュニケーター	県が別に募集する地域コミュニケーターに応募し登録された者	10
通訳者	(公財) 長野県国際化協会が募集する通訳・翻訳ボランティアに登録した者	12

# 活用事例

## 事例① 専門学校

### 【依頼内容】

依頼者：専門学校（介護関係）

対象：外国人学生

内容：学業にも関連した日本語を教えられる人を紹介してほしい

### 【対応】

学校のある地域内で、同様の経験を有している日本語教師の登録者1名を紹介

## 事例② 企業

### 【依頼内容】

依頼者：不動産関連企業

対象：外国人従業員

内容：対面で日常会話を教えられる日本語教師を紹介してほしい

### 【対応】

日本語教師の登録者1名を紹介

## 事例③ 自治体

### 【依頼内容】

依頼者：市町村

対象：外国人住民

内容：オンライン教室で学習支援にあたる日本語交流員を紹介してほしい

### 【対応】

オンライン対応可能な日本語交流員を累計18名紹介

- 地域日本語教育や多文化共生関係のイベント情報の周知
- モデル地域日本語教室の日本語教師を公募する際の周知

…などでも活用

# 課題

## ▶ 日本語教師の育成・確保から コーディネーターの育成・確保へ

広大な県内で、地域日本語教育コーディネーター4名では不足増員できた場合、大人数での有機的な連携は新たな課題

## ▶ 育成した日本語交流員が活躍できる環境を

養成後のフォローアップと活躍促進が必要

## ▶ “みんなが知っている”人材バンクに

人材バンクの活用により日本語学習機会の確保につなげる

## ▶ 人材面以外での適切な支援体制を

人材の充足以外へも視野を広げる



# 参考： 施策の 位置づけ



# 参考： 日本語交流員 養成事業 (H30~)

## 「地域における多文化共生と日本語支援のための研修」に至るまで

すでに地域日本語教室で活動している方・これから携わってみたいという方に活躍してもらいたい

活躍してもらうために必要な資質・能力・知識を習得できる場を

### 「日本語交流員」養成研修の確立を目指す

H30

- 運営委員会【事業全体の進め方】
- 教育課程検討委員会（3回）【カリキュラムの検討】
- 教材の検討・開発委員会（3回）【ワークブックの検討】
- 養成研修の実施  
初期研修（上田・松本）
- 評価検証委員会【事業評価】

R1

- 教育課程検討委員会（2回）
- 教材の検討・開発委員会（2回）
- 養成研修の実施  
初期研修（長野・伊那）  
スキルアップ研修（上田・松本）
- 評価検証委員会

R2

- 教育課程検討委員会
- 教材の検討・開発委員会
- 養成研修の実施  
初期研修（駒ヶ根）  
スキルアップ研修（長野）
- 評価検証委員会
- 長野県日本語教育大会、HP上での公開【普及】

成果

教育課程（カリキュラム）・教材（ワークブック）の作成、研修の実践

[文化庁：日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業]

R3~

日本語交流員養成の継続（R4から体制づくり内に位置づけ）

